

診断士にいがた SOUP LETTER

発行／一般社団法人新潟県中小企業診断士協会

第 15 号／平成 29 年 3 月

URL <http://www.n-smeca.jp/> TEL 025-378-4021

FAX 025-378-4022

診断士と金融機関・新しい広報誌

一般社団法人新潟県中小企業診断士協会 会長 中村 公哉



平成 29 年 2 月 16 日に関東財務局長との面談をおこなってきました。関東・信越エリアの診断士協会の会長が一堂に会し、財務局長と短い時間ながら情報交換を行いました。

背景が曖昧な面がありますが、推測するのに金融庁の方針転換により、各地の金融機関の状況と金融紹介制度のベンチマークの導入にあたり、状況の把握を行うことが先方の目的であったと考えます。一方で診断士側は、数年前の認定支援機関制度の導入時の課題などから、経済産業省だけではなく、金融庁との接触も重要という認識のもとに働き掛けをおこなっていました。

新潟県診断士協会の発言としては、5分という短い時間で次のことを伝えています。「金融機関との提携が進んでいるが、まだ規模が小さな信用組合との提携が進んでいない。それを実施するためには課題がある。」「新潟県信用組合との提携のなかで本年度 30 社程度の企業支援の協力ができた。」「協栄信用組合との提携のなかで、ミラサポ

の制度を活用しながら 10 件程度の企業支援が行えるようになった。」「地銀との連携は続いており、様々な面での協力体制を持っている。」「上越信用金庫を中心として信用金庫とも経営改善支援センターの利用などで協力体制をもっている。」「再生支援協議会の統括責任者に信用保証協会OBが就かれたことにより、診断士としても誠に相談が行いやすい。」「新潟県はオーバーバンキングであり、そのなかで金融調整をおこなうためには信用保証協会の役割が重要になっている。」「信用保証協会、再生支援協議会に助けられている面が多々あり、新潟県の経済のためにも現在の枠組みを継続してほしい。」などの内容を伝えています。

一方で、財務局側は創業が活性化しない背景と、個人保証ガイドラインが機能しているかという確認をおこないたかったようですが、そこまで踏み込む時間はありませんでした。

来年度も本会議が継続される可能性が高いと感じています。また、新潟県診断士協会としては、金融機関が適切な活動が行えるような連携体制が必要と考えています。形だけの連携もみられつつあるため、来年度少し方向修正の検討も必要ではないかと考えています。

さて、本広報誌 SOUP LETTER ですが、来年度から大幅に変わります。まだミーティング中ですが、内部向けの広報誌という性格が強かったですが、今後は外部との連携を加速させるために、外部向けの広報誌への生まれ変わりを考えています。単純な活動報告や事業計画報告は、総会などの機能で報告を果たせることから、より専門性の高いコンサルティングスキルの情報発信などを考えています。

引き続き広報委員会ともに宜しくお願いします。

新春講演会報告

平成 28 年 1 月 21 日に一般社団法人新潟県診断士協会の新春講演会が新潟グランドホテルにて開催されました。



今回も二部構成の講演会となっており、第一部は例年お願いしている日本銀行新潟支店亀田支店長から「最近の金融経済情勢と新潟県経済の課題」と題してご講演をして頂きました。第二部では、アンガーマネジメントファシリテーター小松弘美さんから「イラッときたら 6 秒待とう！アンガーマネジメントで円滑なコミュニケーション」と題してご講演をして頂きました。今年度もお世話になっている新潟県の支援機関からもご出席頂き、盛況の中で開催されました。

第一部の「最近の金融経済情勢と新潟県経済の課題」では、トランプ次期大統領と共和党の政策要綱を始め世界情勢から国内の設備投資や個人消費の動向に対する政府の経済対策から新潟県の景気情勢まで分かりやすくご講演をして頂きました。新潟県の景気情勢では、企業収益や住宅着工戸数から企業金融関連判断の推移や失業率と有効求人倍率などを全国の統計と新潟県の統計を分かりやすくまとめた図表を交えて新潟県の現状から課題と展望ではインバウンド観光に見られる訪日外国人数の推移と今後のインバウンド消費の方向性を示して頂き、また、首都圏における県産品の知名度などのデータを用いて、今後の新潟県の景気回復に向けた展望を分かりやすくご講演を頂きました。

第二部では「イラッときたら 6 秒待とう！アンガーマネジメントで円滑なコミュニケーションを」でアンガーマネジメントとは何かから怒りに対処するアンガーマネジメントができることから、怒りの性質や怒りとはとして「感情表現」、「伝達手段」、「機能・役割」に分けて怒りを分け、問題となる 4 つの怒り「強度が強い」、「持続性がある」、「頻度が高い」、「攻撃性がある」など説明して頂きました。その怒りも怒りには感情のピークがあり、6 秒ほどしかピークが無く時間経過と共に平常心になるため、待つことの大切さから怒る理由として「べき」として自分の願望や希望、欲求を象徴する言葉として、理想と現実のギャップがあることでべきの境界線について説明後、「思考」や「行動」の選択・決断をするのは自分であることやイライラ防止策まで示して頂き、怒りをコントロールすることの大切さについてご講演を頂きました。

両講演とも列席された関係支援機関や会員からは非常に好評でした。

新春講演会後は例年通りに新年会が開催され、なかなか触れあいのできない新潟県内の金融機関や支援機関の方々と交流を深める機会が得られ、会員も含めた相互理解や情報交換が持て、終始和やかな雰囲気の中で終えることができました。



製造業セミナー開催報告

県央会場担当 副会長 野水 敏勝



私は専門家派遣事業等で企業に訪問する際、社長さんと挨拶がてら簡単に経営課題についてお聞きした後、必ず現場を見せてもらいます。製造業であれば工場、小売業であれば売場です。工場の場合ではどのような製品を製造・加工しているのか、どのような設備があるのか、工場のレイアウトはどうか、何より従業員の皆さんが生き生きと働いているかなどなど。また5Sや品質管理については具体的にお話しを伺うことにしています。

課題と課題解決のヒントの半分程度は現場にあるといっても過言ではないと言えます。「現場力」を高めることが製造業セミナーの目的といえるでしょう。

さて製造業セミナーは当協会の中村会長の提唱で平成27年2月に製造業の現場改善をテーマに、主催は新潟県中小企業診断士協会とにいがた産業創造機構が。後援には中小企業基盤整備機構・中小企業大学校三条校、新潟IPC財団の力添えを得てスタートを切りました。

受講生は製造業の管理者はじめ現場責任者や担当者がメインですが、金融機関など支援機関の営業担当者にも参加いただきました。

第一回は座学で動画を用いた分かりやすいケーススタディで科学的な管理手法（IE）に基づく現場改善の方法を学習。第二回はゼミ形式で、自社の工場内写真や作業を撮影した動画、品質データなどを基に、研修で学んだ知識を使って自社の

現場改善を検討。この際他の受講生からの質問、意見も取り入れ討議・検討。次回のゼミまでに検討した改善事項を実際に自社の現場で実践します。第三回ゼミでは自社の現場改善の成果を発表というメニューを実施し大好評を得ました。

これを発展させて製造業「現場改善クラブ」として「5Sセミナー」や「品質管理セミナー」を平成27年度、28年度と継続実施しています。私も県央会場（中小企業大学校三条校）担当として5Sセミナーを担当しています。最近では本年1月から3月にかけて3回シリーズで実施しました。そして参加企業10社18名の方にアンケートを実施し回答を得ました。受講生の皆様からは、分かりやすく役立ったと概ね好評でした。今後どのようなセミナーを期待するか尋ねたところ、「生産性向上（7名）」が最も多く、以下「5S中級編（5名）」「初級管理者講座（3名）」「初級品質管理（3名）」となりました。今後、当協会内で検討していただき、現場改善クラブの登録参加企業様を増やしていければと考えています。

企業の現場力を高めるための手伝いをする事、企業の人材育成の支援をすること、究極的には起業の成長・発展に貢献することが当協会の使命であると考えます。

現在のところは第一歩として、製造業の現場改善クラブと冠していますが、これを商業やサービス業まで拡大することも有意義ではないでしょうか。そして協会の収益事業の柱に育てると共に登録参加企業様と当協会のウィン・ウィンの関係作りの好実例にしていきたいと考えています。



委員会活動報告

総務委員会

委員長 岡田 正博

この原稿を書いている時点において、総務委員会の活動はまだ大きな山場を迎えていません。これから理事会の決議を経て次年度予算と当年度決算が確定し、それをもとに社員総会の招集通知を作成して、総会の当日は運営や議事録作成を行うわけです。あくまでも平成28年度に係る総会なので、実施が平成29年度に入ってからではありませんが28年度の業務ということになります。

1年間の業務としては、総会のほか理論政策更新研修の当日運営関係や新春講演会など、ほぼ決まっていますが、やはりうっかり忘れることも多く不手際があったこの1年だったと思います。ばれている不手際もあり、闇に葬ることに成功した不手際もあり。

総務委員会に限らずどの委員会も協会のための活動をしていまして、休日に委員会の業務をしようやく回すことができ、それでいて直接的に報酬がもらえるものでもありません。しかし、委員会の活動を通じて多くの先輩診断士と出会うことができ、たくさんのことを学ばせてもらい、現在もそれが続いています。独立診断士はたださえ自分の考え方を検証する機会がなく、企業内診断士は他の診断士との交流の機会も少ないと思います。委員会活動を始めた協会活動への参加により、さらに自分を高めることができると思いますので、ぜひ多くの人に委員会などに参加してもらいたいと思っています。

研修委員会

委員長 田村 博康

平素は、研修委員会の活動に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。研修委員会の1年間の活動を振り返りたいと思います。

1. 【診断士の継続的学習機会の創出】

①秋セミナーの企画運営

本年度は、一泊二日のセミナーを企画し、講演、現地視察、会員の交流を図りました。

②研究会の活性化

3月11日に研究会の活動報告会を実施しました。是非会員の皆様からご参加いただき、皆様のスキル向上に利用して頂ければと思います。

2. 【企業内診断士の活性化】

企業内診断士を対象とした診断実務実習の企画を行いました。5名に参加いただき診断先にも大変満足頂きました。参加者の診断レベルの向上も十分に達成できたと思います。

3. 【更新研修の企画運営】

「中小企業・小規模事業者の人材確保と育成支援」について実施いたしました。来年度も皆様のお役に立てる内容を企画してまいります。

4. 【その他】

①受験講座

本年度も中小企業診断士一次試験受験講座を開講いたしました。一人でも多くの受講者が合格できるように講義を進めてまいります。

②調査研究事業

弥彦村の観光について調査研究を行いました。本年度は、現状把握、課題設定を実施し、来年度の提案につなげていきます。

5. 【最後に】

会員の皆様のご協力のもと有意義な委員会活動を行うことができました。特に研修委員会のメンバーの方には、様々なサポートをしていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

事業開発委員会

委員長 和栗 聖



平素は、事業開発委員会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。平成 28 年度の事業開発委員会では金融機関および中小企業支援機関との連携協会と協会セミナー開催を主な方針として活動しました。以下にその内容を報告いたします。

1. 新潟県信用組合様との連携による「けんしんビジネスパートナーシップ事業」の開始

新潟県信用組合様と当協会において、新潟県信用組合様の取引先企業に対して、当協会会員を専門家として派遣を行う「けんしんビジネスパートナーシップ事業」を開始いたしました。本事業は取引先企業とディスカッションを交えながら現場改善に重きを置いた経営診断となっております。新潟県信用組合様および派遣実施済取引先企業のご意見をもとに改善を重ねて次年度も引き続き本事業の運営を行ってまいります。

2. 小規模事業者支援研修（見習研修）の実施

昨年度から引き続き小規模事業者支援研修（見習研修）を受託し、12 月から 2 ヶ月間実施しました。この研修は商工会・商工会議所の経営指導員向けの研修であり、研修参加者からは現場に即した実践的な内容であり経営指導員としてスキルアップが図れたとの意見を頂戴しております。

上記のほか、4 月には製造業向け新入社員研修等を実施予定です。また、事業開発委員会では委員を随時募集しておりますので、ご興味のある会員はお気軽に私までお問合せください。会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

広報委員会

委員長 平塚 幸雄



平成 28 年度の広報委員会では、全回新潟県中小企業診断士協会の広報誌 SOUP LETTER を発行することができました。

広報誌 SOUP LETTER を発行する度にご協力頂きました会員様には改めてお礼を申し上げます。

平成 28 年度を振り返って見ると、会員数が少ない中でなんとかやり遂げた感がありました。

担当当初の 4 月には診断士協会本部で発行している「企業診断ニュース」の「こんにちは、新潟県協会」の編集に始まり、11 月には、今年度より制定された「診断士の日」のイベントに関する準備作業など、昨年度無かった事業が 2 つもあり、会員各位のご協力により、やり遂げることができました。

今年度発行した広報誌 SOUP LETTER を改めて振り返り見直すと、協会の委員会や研究会の活動報告が多く、会員個々の紹介が少なかったことを反省しています。

広報誌 SOUP LETTER は会員には PDF 形式にてメール配信にてご報告していますが、一方で新潟県内の支援機関に対して紙ベースで送付しています。このことを有効に活用して、協会会員の PR の場にならないかと考え、来年度からは、会員個々の得意分野や企業内診断士では企業紹介など、様々な診断士が新潟県内に存在することを、外部機関に知ってもらうことで、協会と会員の知名度が向上でき、会員各位の相互理解にもつながるため、来年度以降は会員個々の皆様から是非、得意分野など執筆をお願いしますので、その節はご対応の程、宜しくお願いします。

事業承継研究会活動報告

研究会代表 土田 正憲

本年度は研究会を2回開催しました。テーマなどは以下のとおりです。

◎第1回

- ・テーマ：事例から学ぶ事業承継のポイント
- ・講師：栗井英大会員

グループディスカッションを通じたケーススタディは当研究会において初めての試み。参加メンバーから様々な意見があがり盛り上がりました。



◎第2回

- ・テーマ：事業承継支援者が知っておくべき税務の知識
- ・講師：渡邊重仁会員

会員からの要望を受けて事業承継にかかわる税務の基礎知識を体系的に学びました。



事業承継研究会では、会員を随時募集しています。ご興味のある方はぜひご入会ください。

企業再生支援研究会活動報告

研究会代表 渡邊 重仁

企業再生支援研究会は、実際の中小企業の再生支援活動の事例発表を基本的なテーマとした研究会です。会員同士での情報交換はもちろん、各分野の専門家や外部団体等からの参加もいただくことで、企業再生に関わる様々な課題の討議を通じたコンサルティングスキルの向上を図るほか、実務担当者間での人脈形成の場を提供することを目的とした研究会です。私の力不足もあり、平成28年度に実施した研究会は1回のみで開催となりました。次年度の目標として改めて3回の定期的実施をしたいと考えております。

◎平成28年度実施の企業再生支援研究会

- ・日時：平成28年7月14日
- ・テーマ：「小規模事業者に対する経営改善支援の実例紹介」（お題：①売上高3億円以下の小規模事業者、②経営改善ポイントが明確であり、③公的支援機関・金融機関・専門家がコラボした案件）
- ・講師：中村 公哉 氏（当協会会長）
近藤 信 氏（当協会専務理事）
田中 満 氏（当協会顧問）

・当日の研究会の様子：当協会の会員だけではなく、公的機関や金融機関等の外部のコンサルティング担当者の皆様も多数ご出席いただきました。懇親会も同時に開催し、情報交換の場となるとともに親睦を深めることができ、お陰様で盛況のうちに終えることができました。



農業経営研究会

研究会代表 平塚 幸雄



今年度の農業経営研究会は1回の開催で終わりました。

年度初めの計画では3回を実施する計画でしたが、私の対応等が悪く農業経営研究会の会員様にはご迷惑をお掛けしたことをこの場をお借りしてお詫びします。

今年度1回の農業経営研究会では、「専門家向け農業経営承継マニュアル」の理解促進のため

昨年度から新潟県農林水産部地域農政推進課の事業として、農業法人及び農業者の事業継承支援事業が開始され、今年度同課から専門科向けに提供された「専門家向け農業経営承継マニュアル」の理解促進を目的に研究会を開催しました。参加者7名で同マニュアルを用意して、読み込みをしながら内容を確認後、実際の現場での事業承継について意見交換を進めて行き、農業法人及び農業者の事業承継の課題や専門科としての対応などについて確認をしました。

研究会終了後、農業経営研究会恒例の懇親会にも参加者全員が参加して、懇親を深めることができました。

研究会で新潟県農林水産部地域農政推進課の担当者を研究会に呼び、「専門家向け農業経営承継マニュアル」に基づく、農業経営における継承についてセミナーを開催することで意見がまとまったものの、同課の担当者が都合がつかなかったりして、開催できませんでした。

来年度は、是非セミナー実施に向けて早い段階から同課担当者で連絡を取り、農業経営研究会が中心となって、協会会員向けセミナーの開催を計画します。

青年部 今年度活動総括

青年部代表 樋口 圭治



お世話になっております。青年部部長の樋口です。前回活動報告を載せていただきましたばかりではありますが、あらためて今回、今年度の活動総括ということで、ご報告させていただきたいと思います。

まずは今年度、当初に決めた日程で会合（および懇親会）を実施できたことには満足しています。偶数月の第3土曜日毎に集合し、部員から簡単な講演をしていただき、その後に飲み会に突入する、やってきたのはこんなことですが、それでも今年度継続できたこと、参加していただいた皆様のご協力あってのことと感謝しています。

青年部は部長の他、副部長、監事のポストを定めています。（特に明確な役割分担を定めている訳ではありませんが。）副部長には昨年度協会に入会した長谷川貴一さん、監事には同じく昨年度協会に入会した竹下智之さんをお願いしています。若手2人に協力いただいて運営しています。

2月の青年部会合に、私（樋口）はインフルエンザにかかり、参加できなくなりました。青年部の会合を欠席するのはこの時は初めてで、どうなるかと思いましたが、私抜きで会合を実施しました。この時は長谷川さんに会合を仕切っていただきました。長谷川さんをととても頼もしく感じたものです。

次年度も青年部の活動は継続していきますが、新たに協会に入会した会員や若手（キャリアの浅い）会員の活躍の場作りには貢献していきたいと考えています。

特集 きょうえい若手経営者の会「コスミック」 勉強会について

副会長 渡辺 芳久

きょうえい若手経営者の会「コスミック」は、協栄信用組合様の営業区域内の若手経営者の研修、交流などを目的に平成9年に設立されました。

平成24年に当組合の創立60周年を迎えたのを機に、「これからも地域とともに」をキャッチフレーズに、地域の次代を担う若手経営者のため、コスミックを発展的に拡大し、再スタートを切って今日に至っています。

会員は、満50歳以下の経営者を対象としていますが、平成24年の再スタート当時89名であった会員が現在は129名となっています。

コスミックの活動の1つとして、平成9年の設立当初から「勉強会」が行われておりましたが、平成24年の再スタート時に、中小企業基盤整備機構の協力を得て、海外展開セミナーや事業承継セミナー等がより本格的に開催されるようになったと聞いています。その後、地元の中小企業診断士や経営コンサルタントを講師として春2回、秋2回の年4回「勉強会」が開催されておりました。

新潟県中小企業診断士協会としては、平成28年にコスミック様と講師派遣の契約を結び、コスミック会員の「若手経営者同士の交流・親睦を深め、発展」していくことお手伝いしています。

具体的には、協栄信用組合営業推進部様を通じて、当協会の事業開発委員会が、「勉強会」のテーマや運営方法・スケジュールの企画提案を行い、コスミックの理事会で決定されます。テーマ決定後、当協会会員向けに講師の公募を行います。選任された講師はシラバスやレジュメを作成し、「勉強会」に臨むこととなります。

平成28年春の「勉強会」では、野水敏勝先生に「新規顧客の開拓と既存顧客の掘り起こし」をテーマに5月と6月の2回講演して頂きました。「企業のマーケティングと営業活動の在り方」を中心にお話され、参加者は熱心に講義を聞き入れてお

りました。

秋の「勉強会」には、土田正憲先生に「コミュニケーション～従業員とのコミュニケーションを図るには」のテーマで10月と11月に2回講演して頂きました。「ホウレンソウ」と「聞く力」を中心にお話されました。秋の勉強会はグループワーク形式で行い、受講者の積極的な姿勢もあり、活発な勉強会となりました。



参加者数は毎回30名程度ですが、熱心に受講されており、経営者としての自覚と熱心さが伺われます。

秋の勉強会終了後は、会員の懇親会が行われ、講師も招待されて大いに盛り上がり、講師とコスミック会員との親睦が深まったように思います。

コスミックの勉強会は、新潟県の産業の中心といわれる県央地区ということもあり、30代、40代中心の若手の経営者の熱い思いと経営に対する積極的な姿勢、旺盛なチャレンジ精神が垣間見られ、活気のある雰囲気で行われています。

平成29年度の春の勉強会のテーマも「リーダーシップ～自分なりのリーダーシップを発揮するには～」に決まり、講師の公募を行っているところです。

この勉強会を通じて、コスミック会員と当協会会員の交流が深まり、お互いに発展していくよう、今後も継続して活動してまいります。当協会会員の皆様におかれましては、一層のご協力をお願いいたします。

特集 経営指導員向け見習研修事業について

担当理事 渡邊 重仁

経営指導員向け見習研修とは、独立行政法人中小企業基盤整備機構が実施している商工会議所・商工会の経営指導員等に対する研修事業のことで、現場で小規模事業者の支援手法等を学ぶことをとおして、小規模事業者支援のスキル向上を図るといった目的のもと行っている事業です。当協会ではこの見習研修事業を平成 26 年度より受託しており、今年度で 3 年目の受託・実施となりました。

今年度は、小規模企業の企業診断業務を理解するというテーマで当協会の中小企業診断士が講師となり、平成 28 年 12 月 8 日から 1 月 20 日までの計 10 日間合計 60 時間にわたり研修を行いました。

研修の講師を担当したのは、当協会の田村昌美会員、樋口圭治理事、和栗聖理事と私渡邊の 4 名です。途中、オブザーバーとして野水敏勝副会長にも参加していただき、アドバイスをいただきました。また、研修生は、新潟商工会議所、五泉商工会議所、巻商工会からそれぞれ 1 名ずつ、計 3 名の参加となりました。研修を実施している 12 月～1 月にかけては商工会議所・商工会においては繁忙期であり当研修への出席自体かなりの負担と思われる中での参加でしたが、研修生全員、意欲をもって積極的に参加していただきました。参加した研修生の経歴・経験には若干の差がありましたが、各自が補いあい、バランスよく役割分担をしながら研修を進めることができたように思います。

10 日間の研修は大きく 2 つのクールに分かれており、前半では新潟市の自動車整備業、後半は長岡市の学習塾の診断報告業務を行いました。研修の内容は、経営指導員等と講師の診断士が実際に企業を訪問して社長に対してヒアリングを実施し、内部環境分析、外部環境分析を行い、課題と改善の方向性を報告書にまとめて、最後に社長へ提出・報告をするというものでした。座学のみではなく、ヒアリングの準備・実施や資料収集、分析

などの作業を研修生に主体的に行ってもらい、必要に応じて診断士が説明し、サポートしていくという流れで行いました。

研修終了後のアンケートでは「事業者に向き合いながら進めるためより実践的な研修となり、勉強になった」という意見や、「研修を受ける前は経営診断がなにかもよくわからなかった状態であったが、研修を受けて診断報告業務を理解することができた」等の感想をいただきました。

今年度は 3 名という若干少人数の参加でしたが、その分一人一人に対し、集中して指導・説明を行うことができました。また、当協会の診断士は講師として指導に当たるという立場ではありましたが、実際には 1 つのチームのような感覚で診断報告業務を進められた点もよかったように思います。

研修生皆で積極的に取り組んでいただいた結果、作成した報告書についても十分合格点を与えられるものとなり、当見習研修の診断報告業務を受け入れていただいた事業者にも大変喜んでいただきました。講師にあたった診断士一同も大変有意義な研修であったと、喜んでおりました。

今回参加していただいた実習生の皆さんが、職場に戻ってさらに活躍することを期待しています。

協会の近況報告

1. 新潟県中小企業診断士協会主催セミナー
新潟県中小企業診断士協会では以下の内容にて「新入社員セミナー」を来年度も開催します。

開催日時：平成 29 年 4 月 6 日・7 日

開催場所：燕三条地場産業振興センター
3 階中会議室

開催内容：本協会会長中村氏と副会長野水氏が講師を務めます。

「事例ディスカッションでビジネスマナーを考える」

「ブレインストーミングで自分達への期待を考える」

「ワークショップで生産性向上を考える」をテーマに両日とも 9 時 30 分～16 時 30 分の時間帯にて開催します。

平成 28 年度も好評を得て、平成 29 年度も引き続きのセミナーとなります。

カリキュラムの概要として、「オリエンテーション」から始まり「事例からビジネスマナーを考える」や「ビジネスマナーの実際を学ぶ」といったビジネスマナーに関する内容から「5S 入門」や「QCD の重要性を理解する」まで新入社員以外の入社 2・3 年目の社員まで参考になる内容となっています。

外部機関や関係機関の方も参加可能ですので、ご興味のある方は一般社団法人新潟県中小企業診断士協会までご連絡をお願いします。

トピックス

① 平成 29 年度総会開催連絡

平成 29 年度新潟県中小企業診断士協会の定時社員総会を以下の通り開催します。

1. 開催日時 平成 29 年 5 月 27 日（土）

2. 開催場所 新潟グランドホテル
新潟市中央区下大川前通 3 ノ町 2230 番地

② 新入会員紹介

とやの総合法律事務所勤務

太田 竜 様（準会員）

これからも宜しくお願いします

編集後記

平塚 幸雄

平成 29 年度最終の広報誌 SOUP LETTER の編集を終えることができました。今年度は委員会報告でも記載しましたが、例年に無かった事業が 2 つあり、会員数も少ない中、なんとか会員様のご協力とご理解により、やり遂げることができました。

来年度も広報委員会では会員を募集しています。来年度は今いっそうの会員の紹介を中心に原稿をまとめていくなど、会員サービスと会員相互理解の促進に向けて新しいことをしたいと考えていますので、是非、ご興味のある会員は平塚まで連絡をお待ちしています。

1 年間 SOUP LETTER にご協力頂き、ありがとうございました。